みんな大切な人

福祉・介護・医療支える力

Stand by you!

そばにいるよ

「ありがとう」励み

永里陽子さん（32）　介護福祉士

昨年、相模原市の障害者施設で元職員が入所者ら46人を殺傷する事件が起き、障害者は不幸だと決めつけるような容疑者の供述が社会に衝撃を与えました。それでも福祉や介護、医療などの現場では、共生を願い、誇りとやりがいを持って当事者のそばに寄り添う人たちがいます。今月から医療・福祉面に新コーナー「Stand by you! そばにいるよ」を設け、これからを担う世代の奮闘を紹介していきます（原則毎週掲載）。

＝佐々木順一撮影

介護は力仕事だ。食事、入浴、トイレの介助と、お年寄りの日常生活を、すらっとした細身の体で12年間支えてきた。

出身は鹿児島県。母も介護の仕事をしていた。それ以上にこの仕事に就くきっかけになったのは、認知症を患った祖母の存在だ。会話はかみ合わず、毎日のように転び、冷蔵庫の中の生肉を食べてしまったこともある。その姿に衝撃を受け「介護についてもっと学ぼう」と決意した。

短大で資格を取り、上京して勤めたのが、社会福祉法人「合掌苑」の運営する東京都町田市の有料老人ホーム。約90人の高齢者を115人でケアする。

欠かせないのが情報共有とチームワーク。職員は常にイヤホンとマイクを付けており、手助けが必要な時は同じ階のスタッフにすぐ伝わる。「前日に転倒して外傷がある」「昨夜眠れていない」といった入居者の変調を見逃さず、交代時に申し送りすることも大切だ。

働き出して数年後、介護の難しさを痛感する出来事があった。入所者の血圧を測定している時、「高いけど大丈夫？」と聞かれ「高めですが大丈夫と思います」と答えた。心配させないための一言だったが、否定的に受け取られてしまい、しばらく関係がぎくしゃくした。何気ない言葉にも気遣いが必要だと教えられた。

気を抜けない仕事の中で、やりがいを感じるのは、「ありがとう」と言ってもらえる時。休み明けには、入居者から「いなくてさみしかったよ」と声もかかり、頑張ろうという気持ちが湧いてくる。

そうした日常のやり取りが励みになるだけに、相模原市の障害者施設殺傷事件は「日々接する方を殺せるというのが、本当に悲しい」。同じ介護に携わる施設職員として、事件のマイナスイメージを消していくには、入居者に「入って良かった」と思ってもらえる仕事を続けるしかないと感じる。

きついと言われる介護職だが、年2回10日ずつの長期休暇もあり「海外旅行もして、リフレッシュしています」。いい仕事をするには、いい労働環境も大切だ。

職場には後輩も多くなってきた。「現場に私がいるから、安心して仕事ができると思ってもらえるような職員になりたい」。中堅として周囲を支える自覚も強まっている。【堀井恵里子】

制度「なければ作る」

河内崇典（かわうちたかのり）さん（40）　NPO法人代表

ある。医師の白衣の袖が、　ある。患者を対象とした過